

(水 俣) 高等学校 平成 2 6 年度学校評価計画表

1 学校教育目標
(ア) 「平成 2 6 年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の校訓「自立・敬愛・創造」の具現化に努め、徳・知・体の調和のとれた全人教育の実践をめざす。 (イ) 開校における教育理念に基づき、学校像・生徒像・指導の重点に沿った教育に努める。 (ウ) 新設水俣高校の完成年度にあたり、これまでの水俣高校や水俣工業高校の教育及び伝統を尊重しながら、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと、活力あふれる学校づくりに挑戦する。

2 本年度の重点目標
(ア) 言語活動の充実—思考力・判断力・表現力を高める。 (イ) 生活指導の徹底 (ウ) 個に応じた学習指導と進路指導の徹底 (エ) 地域と連携した教育活動の展開

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	新設高校としての基盤の確立	基本理念に基づいた教育活動の展開	新設校完成年度としての教育活動の展開	校長の指導のもと、全学年で取り組む。	B	本校の教育目標も概ね理解され、生徒、保護者、職員がその目標達成のためにそれぞれの立場で努力していた。
	安全で安心して学習できる教育環境づくり	緊急事態対応の徹底(事前・事後)	危機管理マニュアルに基づいた巡視等による危機管理の取組	教頭と総務部が立案し、学校全体で取り組む(変化に気づく取り組み)	B	本年度、危機管理マニュアルを改編した。生徒を救急搬送する事案も数件あったが、職員は適切かつ迅速に対応できていた。
学力向上	基本的な学習態度の育成と基礎学力の定着	宅習時間調査の実施とその活用	年 5 回実施後、調査結果を分析することで、宅習時間を増加させる。	教務部で立案し、学年・教科と連携して取り組む。	B	予定通り実施及び個票配付をすることができた。しかし、活用方法やその後の宅習時間増加に向けての指導方法等について検討する必要がある。
	教科指導力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	1・2 学期の公開授業の実施や各教科で年間 1 回以上の研究授業の実施	教務部で立案し、学校全体で取り組む。	B	1・2 学期に公開授業週間を実施したが、外部からの授業参観者が少なかった。実施日程から実施方法まで、今後検討する必要がある。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の実現	進路に応じた指導の推進	年 2 回の進路調査の実施、調査結果を活用した個人面談の実施	進路指導部や各学年と連携を図って取り組む。	B	各学年とも調査結果を活用し担任との面談を実施した。1・2 年では担任以外の職員 2 名が巡回面談をし生徒は進路選択の幅を広げた
	進路意識の高揚	外部講師等を活用した取組の推進	進路講演会、進路ガイダンス、キャリアワークショップ等の実施	進路指導部が企画立案をし、保護者、同窓会、PTA、各学年と連携を図りながら取り組む。	B	計画通りに実施し、進路意識の高揚を図る一助となった。特に 1・2 年生向けに実施した県立大学石橋教授の教育講演会は生徒・職員とも好評だった。
		インターンシップや企業人との交流会を通じた就労観・職業観の育成	企業人との交流を行うことで、進路目標や面接マナー等の意識を高揚させる。			B
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	登下校指導の徹底	年間を通して取り組む。おれんじ鉄道の乗車指導も合わせて行う。	生徒指導部で立案し、学校全体で取り組む。	B	登校指導を計画的に行うことができ、遅刻者への指導、挨拶、服装指導など年間を通して取り組むことができた。

		服装・頭髪指導の徹底	毎月実施する。	学年部を中心に指導し、事後指導も含めて指導の徹底を図る。	B	今年度は学年部と連絡を取り合い多くの先生方の協力でスムーズに進めることが出来た。また、事後指導も計画的に進めることが出来た。
		交通安全教育の充実	自転車、原付運転に関する講演会を開く。原付安全講習会を実施する。	生徒指導部で立案し学校全体で取り組む。登下校の指導と合わせて指導徹底を図る。	C	講演会やHRでの交通指導など多くの指導を行ったが、自転車マナー、原付での交通違反など多くのお叱りを受けた。規範意識の向上を目指し今後指導を徹底していきたい。
	健全な心身の育成	困り感を持つ生徒の早期把握と適切な指導	支援の必要な生徒について全職員が把握し、適切な指導のあり方を確立する。	特別支援コーディネーターを中心に学校全体で取り組む。	B	生徒理解研修を1学期は2回、2学期は1回実施し、支援の必要な生徒について情報共有を行うことはできたが、診断を受けていない生徒については担任任せになってしまった。
		個別のニーズに応じた指導計画の作成	「個別の指導計画」を作成する	特別支援教育委員会による研修計画と研修を実施する。	B	発達障がい診断を受けている生徒については、保護者の同意の下作成することができた。
人権教育の推進	研修の充実と推進体制の強化	校内における人権教育の推進	職員へ各研修の開催の情報を提供し、参加を促す。	定期的に入権教育部会を実施し、職員への啓発を促す。	B	人権教育部の部会を定期的かつ継続的に行い、情報共有をはかってきたが、全職員への啓発については不十分であった。
		人権教育LHRの充実	各学期ごとに人権教育LHRの実施と検討を行う。	各学年と連携し、各学期ごとに人権教育LHRの内容を検討する。	B	生徒の状況を踏まえて各学期ごとに人権教育LHRを行い、概ね好評であったが、今後も内容を検討していきたい。
	学校、家庭、地域社会における取組の充実	人権意識の向上と知識の習得・理解	保護者への案内を行い、講演会等への参加をよびかける。	保護者会等を通して案内を行う。	C	各学期ごとに人権教育LHRを実施することができたが、保護者への案内が疎かになった。次年度は保護者への案内を行いたい。
		水俣病に関する人権問題の学習	正しい人権意識の習得と理解	人権教育部会を中心に企画・検討し、学年と協力して計画をすすめる。	B	新転任の教職員を対象に水俣病資料館で研修を実施した。2学期には語り部の方の講演会を行い、好評であった。
	「命を大切にす心」を育む指導の推進	生徒に「命」や「人間関係」について真剣に考えさせる取組	今年度4回の指導機会（授業）を実施し、生徒の心に訴えかける。	LHRや関連ある内容を扱う教科を組み合わせる各学年の指導計画を立案する。	B	学校行事等が過密スケジュールであるため、人権教育LHR等と合わせながら「命の大切さ・人間関係・言葉使い」等について考えさせる機会を作るように心掛けた。
いじめの防止等	「いじめ」の未然防止と事態への対応	「いじめ防止対策委員会・校内委員会」を中心とした学校全体の取組	いじめを未然に防止し根絶を図り、事態へは迅速に対応する。 (校内委員会の即時活動) 6月の「いじめ防止月間」の取組の推進・標語・アンケートを実施する。	年間を通じていじめ防止の意識を涵養し、特に6月の月間中は集中的に全職員で取り組む。 職員・生徒でいじめを許さない共通認識を持ち、情報の共有を図りいじめ一掃の取組を推進する。	B	本年度より、外部の有識者を交えての「いじめ防止等対策委員会」を各学期に1回ずつ行った。また校内いじめ防止対策委員会を実施し、いじめ等の事件が発覚した際に関係部署と連携して情報の共有をはかることができた。今後も円滑な運営ができるように検討をしていきたい。
言語教育の推進	全教科で取り組む言語教育の充実	読書活動の充実	朝読書の徹底	管理職も含め、全職員で意識を持って取り組む。	B	概ね静かに取り組むことができています。
		図書館活用の推進	授業や学級活動等での計画的な図書館の利用促進	各教科会・学年会における図書館活用の計画立案	C	図書室の移転作業に伴う閉館もあり、なかなか利用時間の増加には至っていない。次年度以降、各教科への呼びかけを強化したい。
	書く力の育成	作文・小論文指導の徹底	授業や総合的な学習の時間を活用し、計画的に指導する。	各教科・進路指導部・各学年を中心として、全職員で取り組む。	B	各学年で週末課題や総合学習の中で小論文指導や小論文模試を実施した。3年生では年度当初の早い段階から小論文や作文指導を仕掛

						けた結果、全職員で取り組めた。
環境教育の推進	地域と連携した環境教育の推進	水俣市や地域の方と共に行う環境活動の展開	学校版環境 I S O 宣言項目を徹底した活動を行う。	宣言項目を基に学校全体で取り組む。	A	エコチェックシートや環境の取組がそれぞれ行うことができ、成果を上げることができた。特に産業団地まつりへの参加・取組では高評価をいただくことができた。来年度も継続していきたい。
			活発なエコスクールの取り組みを行う。	美化委員会を中心に生徒主体の取組を展開する。	B	さまざまな取組が行えているが、生徒主体という部分では十分ではないところがあるので、委員会を中心に生徒が積極的に取組を展開していけるようにしたい。
地域との連携	生徒・保護者・職員による地域連携	学校行事への地域住民の参加	体育大会・文化祭・持久走大会の広報活動の充実と参加の促進	生徒会を中心として計画立案	B	各行事については、毎年多くの方に来校いただいている。地域の回覧を利用する等、周知に関しては工夫が必要である。
		地域行事への参加	地域活動への積極的な参加（ビーチボールバレー大会・競り船大会、地域の祭、ボランティア他）	教頭を中心として地域活動への積極的な参加を促す。	B	地域行事には、工業科や部活動等が積極的に取組んでいる。今後考えられるのは、学校発信の地域活性化や地域の関係企業とタイアップしたものづくり等の工夫も必要と思われる。
		ものづくりを通じた地域貢献の取組	機械科、電気建築システム科の特徴を活かした取組	「体験学習」「技術ボランティア」等の実施	A	各種行事での工業科の活動は好評を得ているので、今後も発展的に取り組んでいきたい。

4 学校関係者評価

○学校評議員評価では、ほとんどの項目においてA評価であった。学校経営、人権教育、環境教育について特に良い評価をいただいているが、改善を期待する意見として、「あいさつ・マナーの向上」、「交通ルールの意識向上」、「地域の祭・行事への積極的な参加」などがあげられた。

○国語の授業で取り組んでいる作文指導と熊日新聞への投稿については、生徒自身の思考力・表現力を高め、言語活動の充実にもつながる良い取り組みであると評価をいただいた。

○水俣市 P T A ビーチバレー大会が新設の体育館で開催された。学校の新しい施設を地域住民に利用してもらうことで学校への理解にもつながっていく。今後も地域とふれあう機会を増やし、地域から愛される学校・生徒になって欲しいとの意見もいただいた。

5 総合評価

○今年度は新設水俣高校の完成年度である。県内でも例のない普通科、商業科、工業科と複数の学科が併設する学校であるため、進路指導や多様な生徒に対する教育体制、学校行事の実施要領の改良など、多くの課題を抱える中、今年度のスローガン「挑む」を合言葉に、新設校の土台作りにも全職員で取り組んだ1年間であった。

○生徒・保護者・職員の学校評価アンケートの結果は概ねB評価であった。生徒が高く評価したのは、「進路指導」全般について、また、「部活動が活発で熱心に活動している」の項目であった。進路指導において、2月中旬には就職内定率100%となったこと、部活動では、カヌー部、新体操部、陸上部、音楽部、放送委員会が全国大会に出場し、成果を上げたことが高い評価につながったと思われる。保護者には「本校に入学させて良かったと感じている」の項目が最も高い評価をいただいた。職員は、「学校経営」全般について、「本校の教育目標の達成を目指した教育活動が行われている」の項目の評価が最も高かった。

○アンケートの結果で、職員の回答がA、BよりもCが上回った項目が、「交通ルールやマナー」についてであった。交通事故発生や、地域住民からの指摘等もあり、安全教育については生徒の意識向上、ルール遵守等の指導を強化する必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

○学校評価アンケートの結果から、「保護者・地域住民との連携」の項目で、生徒・保護者と職員の間で若干の開きがあった。職員の評価に比べて生徒・保護者の評価は低い。また、学校評議員からも地域の行事へ本校の積極的な参加や学校のPRを求める意見もあり、地域住民・保護者、同窓会との連携をさらに強め、地域に唯一の高校として生徒・保護者・地域の信頼度を高める具体的な取組の検討を進めていきたい。

○進路指導において、就職については内定率100%となったが、進学面では第一志望の達成に至らない生徒もいた。多種多様な進路に対応するため、進路指導のあり方や指導方法について工夫・改善を検討していく。

○S G H 研究開発実施申請したところである。次年度からの核になる取組であり、指定を受けた場合に対応できる校内の運営体制を整備し、教育課程を含めた教育活動全般の活性化を図ることで生徒募集にもつなげていきたい。